

## 令和3年度 第1回「林中地区 まちづくり会議」概要

日 時：令和3年7月4日（日） 10：00～11：00

場 所：林中公民館

参加団体等：林中地区協議会、林中まちづくり委員会、林中壮年会、林中すみれ会、体育協会、松南スポーツ少年団、防犯協会、松南小学校 PTA、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、林中こども園保護者会、林中ボランティアグループ、林中こども園理事長、林中地区自主防災会、公民館長、白山市町会連合会理事など

### 発言【1】

- (1) 民生委員・児童委員 実態調査（ごみ出し調査について）
- (2) 高齢者の買い物や病院へ行く際の軽自動車の貸し出しについて
- (3) 買い物弱者について

### 【市】

- (1) 7,108世帯の高齢者等の要援護世帯を調査していただき、その内174世帯の方がごみ出しに支援が必要な世帯との調査結果を得ています。

ヘルパー等の支援者が入っていても、町内のごみ収集日との兼ね合いでごみが出せない状況を解消するため、支援者がごみを出すためのごみボックスを市役所本庁敷地内に設置しています。

家族の支援が得られない場合、地域の民生委員や地域包括センターへ相談していただき、ひとり暮らしの高齢者の困りごとを支援するボランティアである生活支援サポーターの派遣を個別に検討しています。

また、市ではごみの減量化を勧めており、生ごみ処理機に対し最大3万円の補助があります。

- (2) 「めぐーる」は多くの皆様が利用できるルートで運行しており、今後も市民の足となるよう利便性向上に努めてまいります。

バスやタクシーなどの公共交通機関によって住民に対する移動手段が確保できない地域においては、まずは地域の皆様で課題を抽出し、解決に向けた方策を考えることとなります。

その際には、送迎は有料なのか無料なのか、運転手はボランティアなのか交通事業者に委託するのか等、手段によって法的制限などクリアしなければならない条件が違ってまいります。

このため、方策を考える際には、他市の事例も参考にして、地域の皆様と検討してまいりたいと考えています。

- (3) 買い物弱者について、協働のまちづくりの中で、いわゆる「福祉タクシー」で、地域に1台、車を持っていただいて、買い物や通院に活用していただき、地域にその活用をお願いして、誰が、どのようにやるのかも、研究していかなくてはならないと思っています。

《検討の順番》

- ① 既存のバス・タクシーの見直し
- ② 市町村が自ら主体となって「自家用有償運送」を実施
- ③ NPO等による「自家用有償運送」を市町村等が支援
- ④ 市民などによる「許可・登録を要しない運送」を市町村等が支援

## 発言【2】

- (1) 公民館のコミュニセンター化について
- (2) まちづくり支援事業について

### 【市】

- (1) 公民館は地域活動、特に生涯学習拠点として中心的な役割を担っており、今後も地域コミュニティが持続的に発展していくうえで、生涯学習に加えてより幅広い活動が求められるため、公民館をより発展させ、その機能をさらに拡充し、地域振興や課題解決などの拠点となるよう、公民館のコミュニセンター化に向けて協議を進めてまいりたいと考えております。

市民協働のまちづくりについて、皆さんによく言われたのが「公民館がなくなるのか」ということです。これからの地域づくりの中で、もう一步更に進めていき、ステップアップするために「コミュニセンター」という名前にする。

コミュニセンターの業務の中では、健康、防犯もあるが、防災が大きな柱です。防災を柱にしたコミュニセンター化というのが、市が考える一番大きな問題だろうと思っています。

- (2) まちづくり支援事業は、地域の特性を出すためには必要なものであると思っています。きちっと市と連携を取りながら、どんどんやっていただく。このまちづくり支援事業は継続していくことになると思っています。

《白山市市民提案型まちづくり支援事業実施要綱》

〈検討項目〉・令和4年3月31日失効の要綱失効期限の変更

・(仮称) 地域予算制度[一括交付金]の加算枠として制度継続

### 発言【3】

広場・公園について

#### 【市】

公園は地域の要望が多いですが、都市公園・市民公園については、白山市は充足していて、全体的にみると、足りないことはないです。今あるものを有効活用してもらい、使いやすいものにし、遊具等も壊れているものは直す。そういう形で進めていきたいと思っています。松南グランドも、子どもたちが遊ぶ日、時間を作ってもらうなど、地域の中で議論して、あるものを有効活用してもらおうよう考えていただきたい。

また、計画中の（仮称）白山総合車両基地ビジターセンターでは、雨が降っても子ども達が遊べるような屋内遊戯施設を考えています。

### 発言【4】

中学校への通学路の歩道整備について

#### 【市】

通学路のための用地の確保には、地域の人々の協力ができない。通学時の保険は、登下校中の負傷については、日本スポーツ振興センターの災害共済給付の対象になる場合があります。自転車保険については、現状は自己加入となりますが、自転車に乗る際のヘルメットの購入については助成があります。

子どもたちが安全に通えるように、今後もハード、ソフトも含めて整備していきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

通学路点検は、国・県・市・PTA連合会と合同で夏休み中に実施済ですが、今後も、危険な箇所をしっかりと認知しながら、警察や県、国とも連携しながら検討していきたいと思えます。

### 発言【5】

信号機の設置について

#### 【市】

信号機の設置については、非常に地区の要望が多い。交差点に近すぎて、信号が近すぎてできないというのが、信号がつかない理由として多くあります。

そこは（警察に）専門的にみてもらうしかない。今後とも、市内の危ないところから順番に、早め早めに信号機がつくようお願いしたいと思います。

令和2年度において、市では把握している信号機の要望は14件あります。

林中地区からの要望については0件となっております。(実績は0件)

信号機がない交差点については、色を変えたり、一旦停止の看板をつけたりしながら、将来の信号機設置につなげていけるように、学校とPTAと警察との安全点検の時にも、町内会も含めて要望していただきたいと思います。

#### 発言【6】

千葉県事故を受けて、通学路について警察と学校、PTAとすぐに動けるような体制を整えていけないか。

#### 【市】

要望のほか、社会的反響の大きい事件事故の発生等があれば、その都度、警察等の情報共有や対策を検討し、実施しています。

八街市の事故を受け、7月2日、蕪城小口交差点にて、市交通安全推進隊、子供見守り隊、警察、市で啓発活動を実施しました。

#### 発言【7】

各集落にある農地の白地を活用して、宅地化できないか。林中の人口増、若い人が住める街にできないか

#### 【市】

林中地区は市街化を抑制する市街化調整区域に位置付けられています。

市街化調整区域に点在する集落では人口減少や高齢化が進んでいることから、平成23年に集落の活力維持を目的としたまちづくり開発制度を創設しました。

本制度は、地域住民がまちづくり計画を策定すれば、一定の範囲内で宅地開発・建築を可能とするものです。制度の内容は市HPで紹介しています。

#### 発言【8】

人口対策について

- (1) 子ども達の放課後児童クラブ
- (2) 子どもの医療費

#### 【市】

- (1) 両親が安心して子どもを預けて働くことができる環境の整備として、保育所や

放課後児童クラブの整備を行っています。

基本的に、放課後児童クラブは学校の近くにあるのが安心であり、怠りなく子育て環境を整えていくことは大事な視点だと思っています。

松南小学校内の放課後児童クラブは、令和2年度中に工事が完了し、令和3年4月より開所しています。

- (2) 子ども達にしっかり手当を支給していくことが、転入のきっかけになるということは実感しています。子どもの医療費については、18歳到達後最初の3月31日まで保険診療分が無料です。

## 発言【9】

こども庁創設による子ども子育てに関する窓口について

### 【市】

来年度にはこども庁発足かとも思う。その動向を見定めていかなければいけない。市の組織の在り方を考えていかねばならないと考えている。複合的に、チームを作りながらやっていくという形で、市民生活に寄り添えるような形にしていければいいと思っています。

こども子育て課、子ども相談室、発達相談センターなど子どもや子育てに等に関する部局がさらに連携を密にしていきたいと考えています。